

巻 頭 言

京都第一赤十字病院医学雑誌 第3巻発刊に寄せて

京都第一赤十字病院医学雑誌も第3号の発刊となりました。3号という数字は、昔から3代続けば永代続くと言われるように意義深いものがあります。今回の発刊にかかわられた編集委員並びに査読者の皆さまのご尽力に改めて感謝申し上げます。

今回の内容も、C型肝炎はほぼ制圧されたとの力強い総説から始まり、症例報告5編、臨床報告2編、院内合同CPC報告、学術奨励賞受賞報告という多岐にわたるものです。

糖尿病内科、リウマチ科からの症例報告は、各診療科の指導医を含めた臨床マインドの高さを感じさせられるものであります。血液内科、循環器内科、臨床工学技術課からの症例報告は、院内の連携をベースにしたもので、当院のチーム力を感じさせられるものであります。臨床報告の臨床研究・倫理委員会の規定についての投稿は、近年増している倫理ニーズに対応したタイムリーなもので、効率的で適正な倫理審査が行われていくことを期待します。また、産後うつ予防的介入プログラムの両親学級についての臨床報告は、総合母子周産期センターを有する当院ならではの取り組みで、育児環境の更なる充実に寄与していくことを願っております。

そういった当院の臨床と学術の基盤があつてこそ、京都府立医科大学関係病院等協議会をはじめいくつもの学会から、多くの学術奨励賞を受賞することに結実したものと思われ、誇りに思います。また、院内合同CPCがきちんとした形式と内容をもって定期的に継続開催できていることについて、関係者の尽力とともにその矜持に敬意を評したいと思います。

さて、新型コロナウイルス感染症の終息はまだまだ見えず、WITHコロナの時代がしばらく続きます。新型コロナウイルス感染症には3つの感染の顔があると言われます。第一の感染症としての「病気」、第二の感染症としての「不安」、第三の感染症としての「差別」です。世間にはセンセーショナルな情報があふれ、我々は惑わされて行動しがちです。できるだけ科学的な根拠にもとづいた行動と心の状態を持ちたいと思います。そのためには、科学的マインドを育て、情報リテラシーとともにエビデンスの集積が肝要となります。いろいろな面において、この京都第一赤十字病院医学雑誌が貢献することを祈っております。

令和2年8月
京都第一赤十字病院
院長 池田 栄人